

# 教師の児童・生徒観に関する研究

— MTAI 得点にあらわれた教師のパーソナリティ —

(MTAI 日本版標準化の一試み)

(2)

西 山 啓

筆者はさきに教育の現場における教師の児童・生徒の人間関係を測定し、表現する尺度の一つとして、ミネソタ教師態度自己診断目録 Minnesota Teacher Attitude Inventory (以下 MTAI と略称) の日本版<sup>\*</sup>試訳を用いて、我が国における教師および、将来教師を希望する大学生について、彼らの得点上の比較を種々試みた。その結果を要約すると、

1. 教師の MTAI 得点は、学生に比べて低い。男女差は認められない。経験年数と得点との間には相関はない。(r = .039 ~ .085)
2. 教員養成学部学生と非教員養成学部学生との間に得点上の差は認められない。
3. 教育実習参加による実践的体験は、講義による概念的<sup>\*</sup>理解よりも、さらに得点に変化をもたらず。
4. 教育実習への参加により、学生の児童・生徒観は、わずかながら現実的となる傾向を示す。「児童・生徒発達の原理」については、この傾向が可成り強い。
5. 教員養成学部学生は、一般に教育実習を体験することによって教師としての自我意識に好変化を及ぼした。

等の結果をえた。

今回はさらにこれら MTAI 得点と臨床的人格テストの結果を分析検討することにより、より新しい多くの情報を得るとともに、この MTAI 尺度の妥当性の検証の手がかりをえよう

とするものである。

この MTAI 尺度において高得点を示すことは、「相互感情と、同情理解によって特徴づけられた、調和のとれた関係を、児童・生徒の間に保ちつづけられる」ものであり、低得点を示すものは、「児童に対して支配的かつ高圧的な態度を示す」ことを仮定している(1) ののであるが、これらの仮定は、他の臨床的診断テスト等においてその妥当性が立証されなくてはならない。換言すれば、MTAI において高得点または低得点を示す態度を、他のテストによって Personality の面から検討し、うらづける必要があるのである。

教師という職務の特殊性を考えるならば当然なことではあるが、学級集団内での教師のリーダーシップの如何によってその成員たる児童・生徒に及ぼす影響は、他のいずれの集団内のリーダー・フォロアー関係にもまして強く、かつ根強いものがある。したがって、教師と児童・生徒の人間関係は、単なる対人的なつき合い以上の重要な意味を生じてくる。とくに模倣性・感受性にとむ小中学生の時期にあって教師に強く要求されるものは、学識上の知見とともに円満にしてすぐれた全人的資質であろう。

ここにおいて、従来教師の選択や教職にある教師の実状の測定、職業選択上のカウンセリング等の具として用いられようとしていたこの MTAI の使用目的をさらに一步すすめる必要がある。すなわち、これらの尺度にあらわれた結果から集団を調和的にかつ効果的にとりあつかい指導することが可能であるかいなかという人事管理上の資質や能力の測定の可能性を検討吟

\* 酒井行雄指導 西山 啓 訳

「ミネソタ教師態度自己診断目録」(日本版)  
1960

味することは、きわめて重要なことといわねばならない。

この方面に関する一研究として、Cook, W, Medley, D. M, らは MTAI 得点の上位群 (High Rapport 群) 下位群 (Low Rapport 群) について MMPI (ミネソタ多面性人格診断テスト) の各項目ごとの比較をこころみている(2) それによると、MTAI 得点の高いグループは、ヒステリー尺度 (Hy) 精神病尺度 (Pa) が高く、MTAI 得点の低いグループは、ヒポコンデリー尺度 (Hs), うつ病尺度 (D), 社会的内向性尺度 (Si) が高いとしている。(Table 1)

Table 1 209名の教師によるMTAI上位群、下位群とMTAI各尺度の比較。  
(Cook, Medley \*による)

Key	Low Rapport (N=99)	High Rapport (N=100)
Uncoded	4.0	7.3
Hs	6.1*	0.9
D	8.1*	0.9
Hy	8.1**	24.6
Pd	8.1*	17.3
Mf	15.2	9.1
Pa	10.1	10.9
Pt	2.0	0.9
Sc	4.0	0.9
Ma	15.1	17.3
Si	21.2*	10.0
Total	100.0	100.1

\* Significant at 5% level

\*\* Significant at 1% level

これらの結果は、児童生徒とよい Rapport をつくりうる教師、つくりえない教師の差は十分に彼の性格的原因によるものと考えられる。したがって、この MTAI 得点の高低は学級社会におけるリーダーとしての教師が彼のクラス

や、地域社会において、好ましい人間関係をつくり上げて行くために必要な性格上の資質等を探索する一つの手がかりとしてもまた、その存在理由をみとめることが出来るのである。以上の如き観点から、本研究においては、我国における教師及び教師を志望する大学生の MTAI 得点と、その性格特性のプロファイルを比較検討するものである。

## 目 的

今回の研究は、MTAI (日本版) 得点によってあらわされた好意的反応及び、非好意的反応と教師のパーソナリティとの関係の分析考察にある。前述のように Cook, W. Medley D. M. らの結果と直接その結果の比較を試みるためには、MMPI を使用することが最ものもましいわけである。しかし現在のところ我国における MMPI の標準化・実用化はいまだ十分ではないため、その使用には若干問題のあること、検査項目が非常に多いこと等により一時に多数の被験者を得ることはきわめて困難なことである。また MTAI 日本版の結果と、米国における得点結果との間に若干の喰いちがいのあること等の理由から、この日米両国における喰い違いの原因を究明しないままに得点の相互比較を試みてもそれ程の意味はないと考えられる。

本研究の直接の目的は、MTAI の得点と性格テストとの結果を比較考察することにより、MTAI (日本版) の妥当性のうらづけ及び診断目的への適否とを検討することにあるのであるから、MTAI の高得点群、低得点群の Personality の差異を比較検討すれば、上述の目的は一応達成される。

以上の理由から、MTAI にかわる Personality Inventory として、その特性が6つのプロフィールとしてあらわされ、団体検査も十分可能である B P I 性格検査<sup>\*\*</sup>を使用し、これらの性格

\* Cook, W. W. and Medley D. M.,  
Relative Frequency of Coding of MMPI Profiles of 209 Teachers Classified According to Level of Pupil-Teacher Rapport as Measured by the MMPI. より

\* 504項目といわれる。

\*\* 広島大学 小林利宣・近藤敏行共編  
K.B.P.I.性格検査 (S-Form)  
大成出版牧野書房

プロフィールも、MTAI（日本版）の高得点群、低得点群との比較検討を試み、MTAI 日本版の評価尺度の妥当性を検討するための資料をうることとした。

対象及び方法

MTAI（日本版）を実施した鳥根大学教育学部学生中より91名（男子=47，女子=44）を抽出し、BPI 性格検査を実施し、

1. BPI に表われた6 性格特性のそれぞれにつき、上位群、下位群別の MTAI 得点の比較
2. 教育実習という実践的体験により、MTAI

の得点の変化の大なるものにつき、得点の減少するものと、増加するものとの性格特性上の比較

3. MTAI を構成する5つの主要項目<sup>\*</sup>における上位得点群と下位得点群の性格特性の比較を行なう。

結果及び考察

BPI 性格検査にあらわされた性格特性の上位群、下位群の MTAI 得点の比較は Table 2 に示される。

Table 2 BPI にあらわれた Personality trait と MTAI 得点の比較

	男		女		MTAI 得点差	
	上位群	下位群	上位群	下位群	男	女
Neurosis	-.49	.89	3.9	19.4	-5.79	-15.5
B <sub>1</sub> -N	(88)	(14)	(88)	(21)	**	**
Self-sufficiency	-2.26	-9.3	6.36	.71	+7.04	+5.63
B <sub>2</sub> -S	(93)	(13)	(93)	(9)	*	**
Introversion -Extroversion	2.47	5.4	1.07	8.00	-2.55	-6.93
B <sub>3</sub> -I	(85)	(23)	(93)	(26)	**	**
Dominance -Submission	1.50	4.0	7.70	18.6	-2.50	-10.9
B <sub>4</sub> -D	(96)	(15)	(92)	(18)	**	**
Self-Confidence	1.13	9.11	1.38	16.5	-7.88	-15.12
F <sub>1</sub> -S	(95)	(10)	(91)	(10)	*	**
Sociability	2.10	-16.00	4.1	-2.80	+18.10	+6.90
F <sub>2</sub> -S <sub>0</sub>	(89)	(17)	(91)	(17)	**	**

(85) ... ( ) 内は BPI Percentile 得点

\*\* ... 1% level で有意差あり

\* ... 5% level で有意差あり

これによると、神経質傾向 (B<sub>1</sub>-N) の高いもの、すなわち上位群は、下位群にくらべて MTAI 得点がひくく有意差をみとめる。(男女ともに P<.01%)

自己充足 (B<sub>2</sub>-S) については、下位群に比べて上位群の MTAI 得点は高く、その差も有意である。(男子 P<.05, 女子 P<.01) 内向性については、下位群の MTAI 得点の方が上位群よりも高く、その差も有意である。(男女とも P<.01)

内向性 (B<sub>2</sub>-I) については下位群の MTAI 得点の方が上位群より高く、その差も有意である。(P<.01)

\* 5つの主要項目は次のとおりである。

- 道徳 (Moral status)
- 訓育 (Discipline)
- 児童発達及び行動の原理 (Principles of child development and behavior)
- 教育の原理 (Principles of education)
- 教師の個人的反応 (Personal reactions of the teacher)

支配性 (B<sub>4</sub>-D) については、下位群のMTAI 得点の方が、上位群よりも高く、その差も有意である。(男女ともP<.01)

自信(なし) (F<sub>1</sub>-C) については、下位群(自信あるもの)は上位群(自信のないもの)に比べてMTAI 得点が高く、その差も有意である。(男子P<.05, 女子P<.01)

社交性(なし) (F<sub>2</sub>-S<sub>0</sub>) については、上位群(非社交的)のMTAI 得点は、下位群(社交的)に比して高く、その差も有意である。

従って、これらの結果を概括すると、神経質ではなく、情緒的にも安定し、自立的で決断力があること。外向的で支配的優越性を示し、物事に対して処理能力はあるが、それを表面に出そうとしない。社交性に欠けているが、人をあてにしないような特性は、MTAI 得点が高いといえる。

次にこのMTAI 得点は、個人個人については、概して恒常的であるが、特に変化の多いグループについて、そのPersonality Profile を比較した。すなわち教育実習という教員養成学部学生にとって、深くしかも強い印象をあたえる実践的体験を通じて、児童・生徒に対する態度が好意的に変化したと考えられるMTAI 得点の増加群と、児童生徒に対する態度が非好意的に変化したものと考えられるMTAI 得点の減少群について、BPI 性格検査のPersonality Profile を比較検討した。

得点増加群・減少群の人数及び変化点は、Table 3 に示される。

Table 3 教育実習によりMTAI 得点の変化の大きなもの

		N	平均変化点
MTAI 得点増加群	男	9	+ 28.78
	女	10	+ 20.71
MTAI 得点減少群	男	7	- 24.00
	女	9	- 22.67

\* +は得点の増加、-は得点の減少を示す

この得点増加群・減少群のPersonality Profile は、Fig. 1, Fig. 2 のごとくである。

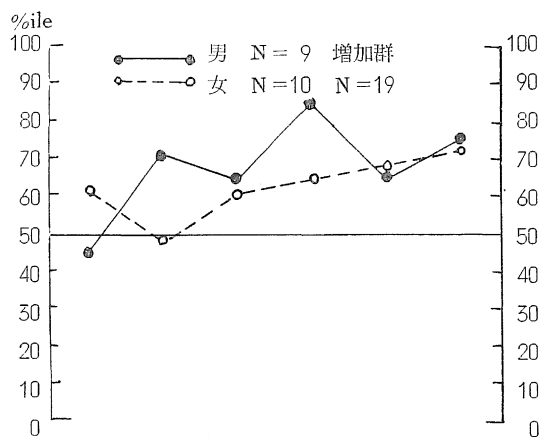


Fig. 1 MTAI 得点増加群にあらわされたBPI 性格検査 Profile

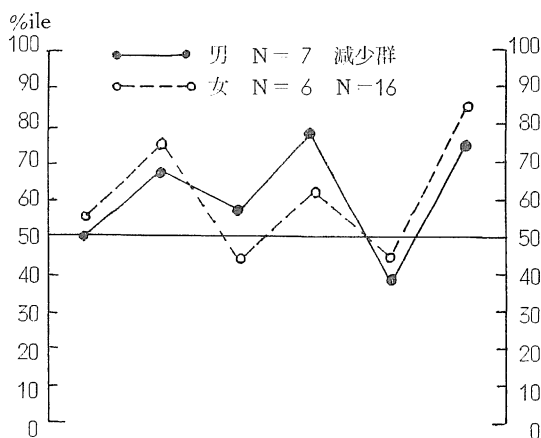


Fig. 2 MTAI 得点減少群にあらわされたBPI 性格検査 Profile

このProfile をみると得点増加群の平均的Profile は一般にM型とよばれる型を示しているのに対し、減少群は、一般に増加群にくらべて神経質傾向が高く、とくに女子においては、支配的でありながら自信のもてないというやや変則的な傾向がみられる。

次にMTAI 主要5項目別のBPI 性格特性の得点は、Table 4 及び5 のとおりである。

Table 4 MTA I 主要5項目別のBPI 得点 (男子)

	神経質		自己充足		内向		支配		自信		社交	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
道徳	8.7	7.9	5.1	-2.0	.8	14.5*	6.7	7.5	-23.2	12.8*	19.5	1.8*
訓育	1.0	3.2	-3.6	-2.5	-3.2	2.0	-2.6	1.9	-3.5	.4	1.2	-2.4
児童発達	.1	-2.2	-2.4	-3.6	-3.2	-1.5	-2.2	.8	-3.6	-.1	1.3	-4.2
教育原理	6.4	4.8	3.8	1.1	1.9	6.7	4.5	6.0	1.6	8.2	7.3	1.9
教師個人	-3.9	-4.1	-4.5	-7.8	-6.8	-2.0	-3.1	-6.7	-5.4	-2.0	-2.1	-16.2*

\* Significant at 5% level

Table 5 MTA I 主要5項目別のBPI 得点 (女子)

	神経質		自己充足		内向		支配		自信		社交	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
道徳	9.7	5.0	7.9	6.8	2.8	8.3*	7.8	18.3*	1.4	12.0*	10.5	3.8*
訓育	-1.7	-1.3	-.6	.1	-3.6	-1.1	-1.8	2.3	-3.0	-4.3	-.4	-2.3
児童発達	-1.0	1.7	-2.8	-1.1	-1.9	-2.7	-2.8	3.1	-2.1	-1.0	-.1	-3.0
教育原理	6.1	7.3	5.1	2.5	0	7.8	4.7	6.8	1.5	8.9	5.6	4.4
教師個人	-7.4	-6.7	-.5	-4.2	8.3	-2.2	-5.3	-3.3	-8.5	-2.4	-3.2	17.9*

\* significant at 5% level

この結果、MTAI 主要5項目のうちBPI 性格特性の上位群及び下位群にかんして、差のみられるものは、「道徳」に関する項目と、「教師個人の問題」に関するものである。

「道徳」に関する項目について、BPI 特性群の上位群と下位群を比較したものが、Table 6 である。

Table 6 MAT I 主要項目中「道徳」得点と BPI 性格特性の比較

BPI 特性	上位群		下位群		差	
	男	女	男	女	男	女
B <sub>1</sub> -N	8.7	7.9	7.9	5.0	.8	2.9
B <sub>2</sub> -S	5.1	7.9	-2.0	6.8	**	7.1
B <sub>3</sub> -I	.8	2.8	14.5	8.3	*	13.7
B <sub>4</sub> -D	6.7	7.8	7.5	18.3	.8	10.5
F <sub>1</sub> -C	-23.2	1.4	12.8	12.0	**	36.0
F <sub>2</sub> -S <sub>0</sub>	19.5	10.5	1.8	3.8	**	17.7

\*\* significant at 1% level  
 \* significant at 5% level  
 † significant at 10% level

同様に「教師個人の問題」にかんする項目について、BPI 特性の上位群・下位群を比較したものが、Table 7 である。

Table 7 MAT I 主要項目中「教師個人の問題」得点とBPI 特性比較

	上位群		下位群		差	
	男	女	男	女	男	女
B <sub>1</sub> -N	3.9	-7.4	4.1	-6.7	.2	.7
B <sub>2</sub> -S	-4.5	-.5	-7.8	-4.2	3.3	3.7
B <sub>3</sub> -I	-6.8	8.3	-2.0	-2.2	4.8	10.5
B <sub>4</sub> -D	-3.1	-5.3	-6.7	-3.3	3.6	2.0
F <sub>1</sub> -D	-5.4	-8.5	-2.0	-2.4	3.4	6.1
F <sub>2</sub> -S <sub>0</sub>	-2.1	-3.2	-16.2	-17.9	14.1	14.7

\*\* Significant at 1% level  
 \* Significant at 5% level  
 † Significant at 10% level

これによると、MTAI 得点において有意な差のみられるものは、社交性の項のみである。すなわち、社交性に欠けるものの方が、社会的

なものよりも、好意点が高いことが、男女いずれの場合においてもみとめられる。(P<.05) 内向-外向の項においては、女子の場合、内向的性格をもつものの方が好意点が高いという傾向がみられるが、有意差はない。したがって、一般に教師個人の問題については好意的な反応をするものは、性格的には、社交的で、はですぎでないものと考えられる。

この結果は、MTAIの全体的得点の高いものは、社交性の点では、やや欠けるところがあるという前述の結果と一致するが、この事実は、教師を志すものは、性格的に地道な Personality をもつものが多いとも考えられるが、この点については今後の研究にまたねばならないであろう。

なお、教育実習中に、教生自身が授業忌避や、不適応行動をとり、実習を中止しなくてはならなくなったいわゆる問題行動をおこした教生の得点は極端に低く、BPIにあらわされた性格特性にも極端な異常値がみられるのであるが、この点についても今後更に分析考察をすすめて行きたい。

## 要 約

MTAI 尺度の診断的妥当性を検証する一つのアプローチとして、MTAI に示される高得点群と低得点群のそれぞれにつき BPI 性格検査の性格特性を比較検討した。被験者は教育学部学生91名である。その結果

1. BPI 特性の上位群と下位群との MTAI 得点の間には有意な差のみられるものが多く、MTAI 得点の高いものは、BPI 性格検査においても次のような性格がみられる。すなわち、神経質ではなく、情緒的に安定し、自立的で決断力があること。外向的で支配的優越性を示し、物事に対する処理能力や自信はあっても、それを表面に出そうとしないこと。一方社交性にはやや欠け、人をあてにしないこと、等である。

2. MTAI の得点は個々人については、概して恒常的であるが、特にその変化の多いグループと、変化の少ないグループとについて比較すると、得点増加率の平均的な BPI 性格特性プロフィールは、概してM型をしめし、減少群のそれは、増加群に比べてやや神経質傾向が高く、自信はないが、支配的であるという変則的傾向がみられた。

3. MTAI を構成する5つの主要項目中 BPI の6つの性格特性の上位群と下位群にかんして、MTAI 項目別得点の差のみられるものは、道徳にかんする項目と、教師個人に関する問題であって、他の項目には差はみられない。

4. 「道徳」の項目にかんしては、男子の MTAI 道徳項目の上位群は、

- 1) 自己が十分みたされ、自主性にとむ
- 2) 内向的な性格をもつ
- 3) 物事にかんし、やや自信にとむ
- 4) 社交性に欠ける

等の性格特性がみられ、女子の MTAI 道徳項目の上位群においては、

- 1) 支配的優越性をしめす
- 2) 物事にかんして自信にとむ
- 3) 社交性に欠ける

等の性格がみられる。

「教師個人の問題」の項目にかんしては、差のみられるものは、男女とも社交性の特性のみであり、男女とも MTAI 項目別得点の高いものは社交性に欠けるという結果をえた。

このように、内向性、社交性に欠けるという特性が示される事実の原因については、今後の研究にまたねばならないが、いわゆる「教師タイプ」の一つの型ともいふべき職業上の性格特性と仮説的に考えられるかもしれない。

本調査研究にあたり、調査にご協力いただいた島根大学教育学部付属小学校玉木国寿教諭 同付属中学校三成重明教諭及び結果の整理集計に協力をよせられた島根大学教育学部松浦誠一郎心理学専攻生に深甚なる謝意を表す。

\* ケースが少ないため資料として掲げることがをひかえた

参 考 文 献

1. Cook, W. W., Leeds, C. H., and Callis, R.  
Minnesota Teacher Attitude Inventory.  
The Psychological Corporation  
New York, N. Y. 1951
2. Cook, W. W. and Medly, D. M.  
The Relationship Between Minnesota  
Teacher Attitude Inventory Scores and  
Scores on Certain Scales of the Minnesota  
Multiphasic Personality Inventory.  
J. Appl., Psychol., vol. 39 No. 2, 1955
3. 近藤敏行・小林宣共編  
B P I 性格検査 (S-Form) 大成出版牧野書房
4. 西山啓, 教師の児童観・生徒観に関する研究  
—MTA I 日本版標準化の試み— (1)
5. 酒井行雄指導 西山啓訳,  
ミネソタ教師態度自己診断目録 (日本版) 1960